

スペイン語多読活動

ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻 江澤 照美

高等言語教育研究所と長久手キャンパス図書館のご支援をいただき今年度もスペイン語多読活動を実施した。今年度は昨年度から感じていた課題が顕著となった。昨年のうちに早期対応すべきであったという反省をこめ今年度の活動を振り返る。

図書館のグループ研究室を利用したの課外活動は前期に計6回実施した。昨年度は前期、後期7回ずつである。第1回の実施が5月31日となってしまったのは報告者が4月以降多忙を極め本活動の準備への取り組みが遅れたためである。そういう状況で5月中旬、活動補助のために各回1名の学生アルバイトを募集したところ、早い反応を示してくれたのが2-4年生だけでなく、入学して間もない1年生からも数名出たことは特筆しておきたい。これはたいへん喜ばしいことであり、幸先のいいスタートが切れると思った。

この図書館での課外活動とは別に、特定の授業の課題の一部として多読を受講生に課すという試みを昨年度に引き続き、実施した。対象科目はスペイン語圏専攻2年生の必修専攻科目「スペイン語 II(講読)」であり、前期・後期ともに所定の期間内に読書記録を提出することを義務づけた。〆切を守って提出した学生については一律に半期ごとの評価において10%の評価をおこなうことは予めシラバスにて公表していた。また、多読用ウェブページや配布物、チラシによって図書館での多読活動の実施日時も知らせた。昨年度と同様、報告者と共にこのクラスを担当された非常勤講師の岡見先生には多読課題実施にあたりご協力いただいたことを感謝する。

このように順調に進んだ部分もあった多読活動であるが、図書館での活動は全般的に低調に終わった。アルバイト学生1名(注:部分的勤務も可という条件にしたので、大半は3時間の活動中の前半に学生1名、後半に交代要員として学生1名の配置である)と報告者による2名体制で、もちろん小規模な活動なので補助業務をおこなう学生アルバイトが1名であること自体は適切な人数であると思う。しかし、開室した曜日や時間帯がよくなかったのか、グループ研究室開室中に読む本を物色しに訪れる学生は少なく、課題提出〆切日が近づく7月に本を見に来る学生が増えたぐらいであった。報告者や学生アルバイトが手持ちぶさたとなる時間帯も多かった。

このような図書館での活動とは対照的に、前期に2年生に課した上述の課題については、2クラス計約60名の受講生の大半が〆切期間内に報告者が指定した形式での読書記録を提出し、長期欠席の学生を除くと未提出者は数名程度であった。これは昨年度とほぼ似たような結果である。今年度の課題のノルマとしたワード数はこれも昨年と同様で、前期5000ワード以上、後期8000ワード以上で、選ぶGR(外国語学習者用)またはLR(児童用)の本のレベルはあえて不問にしている。

以上のような学生の反応から報告者は多くのことを学んだ。多読を特定の授業の課題とし、評価の一部に加えるという方法はこの活動を始めた当初、まったく想定し

ていなかった。多読の課題化に踏み切ったのは、この活動を手伝ってくれた学生アルバイト数名への意見聴取がきっかけであった。教員としては、大半の学生が与えられた課題をきちんとこなすこと自体は評価したい。

しかし、昨年前期から今年度前期まで計 3 期にわたり図書館での活動と一部授業での多読の課題化を実施した結果、教室外で学習をするための環境を教員が用意するだけでは不十分で、教員に言われなくても自主的に教室外で勉強を続ける学生は非常に少数であると報告者が確信を持つに至る結果が出た。自律的学習者の育成は現在の日本の高等教育における課題のひとつとなっているが、自習用スペースなどの環境を整備するだけでは学修時間の増加につながるか懸念されるところであり、この点は来年度より本学外国語学部で本格的に始まる「グローバル人材育成推進事業」を利用した活動のコースデザインをおこなう際も留意すべきであろう。

そして、報告者はこれまで時間をなんとか調整して本活動に毎回参加していたが、残念ながら図書館での活動は自分の努力に見合った成果をあげていないことや他の仕事との両立に困難をきたすようになり、今年度後期の図書館での活動は見合わせ、今後の活動計画を見直すことにした。その詳細については来年度も本誌に報告できれば幸いである。ポートフォリオの活用を検討している。

後期には、スペイン語読書活動の一環として、1 月 17 日(木)4 限に単発企画「読書クラブ(Club de lectura)」を同僚のサラ、バルベルデ教員の協力を得て開催した。「スペイン語 II(講読)」クラスの受講生対象で、後期テキストを課題図書とした。Club de lectura については拙稿(『ことばの世界』第 3 号所収、p.49)を参照されたい。

最後に、本学高等言語教育研究所には今年度も報告者の活動に理解を示していただき、多読図書の新規購入および各図書の語数計測・表示などのアルバイト雇用をすることができた。また、本学図書館にも多読図書の管理や展示、グループ研究室利用の際に大変お世話になった。来年度、図書館の多読コーナーは館内で場所替えするそうで、リーディング教材本は学生が落ち着いて本を選びやすい場所に設置されるとのこと。このような多くの方々のご協力があったからこそ、本活動を続けることができた。今年度一時休止状態に陥ったが、来年度にはなんとか立て直して、学生の読解能力向上により一層役立つ活動を目指したい。

2012 年度「スペイン語多読図書の部屋」の開催場所と日時は以下の通り。

【場所】 愛知県立大学長久手キャンパス図書館 2 階
グループ研究室 A

【開室日】 5 月 31 日(木) 6 月 7 日(木) 6 月 21 日(木)
6 月 28 日(木) 7 月 5 日(木) 7 月 12 日(木)

【蔵書数】 多読用図書 計 418 冊

うち LR(児童用) 209 冊 GR(外国語学習者用) 209 冊

(参考:昨年度は計 298 冊、うち LR 129 冊+GR 169 冊) [今年度の PR チラシ]

